中学生における暴力行為の実態調査

○萩原利香¹・津川秀夫²
(¹しおかぜ病院・²吉備国際大学心理学部)
キーワード: 中学生, 暴力, 実態調査

Investigation of actual conditions of violent behavior in junior high school students
Rika HAGIWARA¹, Hideo TSUGAWA²
(¹Shiokaze Hospital, ²School of Psychology, Kibi International University)
Key words: junior high school students, violence, investigation of actual conditions

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文部科学省, 2013)によると, 平成 24 年度において校内にて暴力行為が発生した中学校は全中学校のうち 43.3%であり, 生徒 100 人あたりでは 0.97 件の発生率であった。これらの値から, 調査において取り上げられた暴力行為は, 比較的大きなものに限られ, 日常的な喧嘩や小競り合いなどは含まれないことが推測される。

本研究では, 中学生の日常生活における暴力行為を把握することを目的として, 自己記入式の質問紙により実態調査を実施した。

方 法

対象者 岡山県内の公立中学校 2 校の 1227 名(男子 647 名, 女子 580 名; 平均年齢=13.27, SD=0.93)を対象とした。

質問紙 文部科学省 (2011) の調査における定義を参考に, 対人暴力および対物暴力に関する項目を作成した。回答方式は, 過去 1 年間における暴力経験の有無を尋ねるものであった。なお, 暴力経験がある場合は複数回答を可能とした。
対人暴力 質問項目は, 暴力の行為を表す「物 (重みのある) を投げつける」「身体を突き飛ばす」「胸ぐらをつかむ」「殴る (ビンタも含む)」「蹴る」の 5 項目からなる。各項目について, 「同級生」「下級生」「上級生」「先生」「どれも無い」のうち, 当てはまるものに回答を求めた。

対物暴力 質問項目は, 暴力の種類を表す「スプレーなどで落書きをする」「ドアや壁などを壊す」「植物をいためる」「生物を傷つける」「備品や家具を壊す」の 5 項目からなる。各項目について, 「学校」「家庭」「その他」「どれも無い」のうち, 当てはまるものに回答を求めた。

結 果

対人暴力 経験ありの人数 暴力の各行為および各対象について, 暴力経験がある者の人数と割合を算出した (Table 1)。なお, 行為別における合計人数は, 延べ人数ではなく, 実数を算出した。例えば, 「1. 物を投げつける」において, 「同級生」および「下級生」の両方に経験がある者の場合, 2 名ではなく 1 名と数えた。各対象における合計人数も同様の手続きにより算出した。その結果, 全対象者のうち, 47%において, 暴力経験のあることが示された。また, 暴力の種類は, 「蹴る」「殴る」の順に多く, 「身体を突き飛ばす」「胸ぐらをつかむ」「物を投げつける」と続いた。対象としては, 「同級生」が約 43%と突出して多く, その他は 10%以下であった。

性別および学年別による比較 暴力経験がある者の人数を用いて, 性別および学年別に χ^2 検定をおこなった。その結果, 性別において有意な偏りが認められ ($p<.01$), 残差分析により男子が女子よりも多いことが示された。学年においても有意な偏りが認められ ($p<.01$), 1 年が他学年より多くなった。

対物暴力 経験ありの人数 暴力の各行為および場所について, 経験がある者の人数と割合を算出した (Table 2)。その結果, 全対象者のうち, 約 16%において暴力経験のあることが示さ

れた。また, 暴力の行為では, 「学校の備品や家具を壊す」「ドアや窓ガラスなどを壊す」の順に多く, 「植物をいためる」「生物を傷つける」「スプレーなどで, 落書きをする」と続いた。場所として, 「学校」と「家庭」の割合は同程度であった。
性別および学年別による比較 暴力経験のある人数を用いて, χ^2 検定をおこなった。その結果, 有意な偏りが認められ ($p<.01$), 残差分析より, 男子が女子よりも多いことが示された。学年においては, 有意な偏りは認められなかった。

Table 1 対人暴力の経験がある者の人数および割合											
		同級生		下級生		上級生		先生		計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. 物を投げつける	全体	151	12.31	26	2.12	26	2.12	9	0.73	177	14.43
	男子	108	16.60	19	2.94	15	2.32	4	0.62	122	18.86
	女子	43	7.41	7	1.21	11	1.90	5	0.86	55	9.48
2. 身体を突きとばす	全体	306	2.49	50	4.07	23	1.87	11	0.90	334	27.22
	男子	213	32.92	30	4.64	17	3.55	5	0.77	229	35.39
	女子	93	16.03	20	3.45	6	1.03	6	1.03	105	18.10
3. 胸ぐらをつかむ	全体	151	12.31	30	2.44	17	1.39	6	0.49	167	13.61
	男子	126	19.47	21	3.25	17	2.63	4	0.62	137	21.17
	女子	25	4.31	9	1.55	0	0.00	2	0.34	30	5.17
4. 殴る	全体	377	30.73	57	4.65	33	2.69	10	0.81	416	33.90
	男子	282	43.59	36	5.56	23	3.55	7	1.08	304	46.99
	女子	95	16.38	21	3.62	10	1.72	3	0.52	112	19.31
5. 蹴る	全体	391	31.87	65	5.30	35	2.85	7	0.57	432	35.29
	男子	281	43.43	41	6.34	21	3.25	5	0.77	303	46.83
	女子	110	18.97	24	4.14	14	2.41	2	0.34	130	22.41
計	全体	535	43.60	104	8.48	61	4.97	17	1.39	579	47.19
	男子	379	58.58	70	10.82	37	5.72	9	1.39	398	61.51
	女子	156	26.90	34	5.86	24	4.14	8	1.38	181	31.21
全体: n=1227, 男子: n=647, 女子: n=580											

Table 2 対物暴力の経験がある者の人数および割合											
		学校		家庭		その他		計			
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. スプレーなどで, 壁や棚に落書きをする	全体	11	0.90	9	0.73	13	1.06	28	2.28		
	男子	6	0.93	7	1.08	10	1.55	19	2.94		
	女子	5	0.86	2	0.34	3	0.52	9	1.55		
2. ドアや壁, 窓ガラスなどを壊す	全体	30	2.44	37	3.02	9	0.73	72	5.87		
	男子	27	4.17	28	4.33	6	0.93	58	8.96		
	女子	3	0.52	9	1.55	3	0.52	14	2.41		
3. 育てている植物をいためる	全体	16	1.30	25	2.04	8	0.65	43	3.50		
	男子	9	1.39	16	2.47	4	0.62	25	3.86		
	女子	7	1.21	9	1.55	4	0.69	18	3.10		
4. 育てている生物を傷つける	全体	9	0.73	26	2.11	11	0.90	41	3.34		
	男子	4	0.62	17	2.62	9	1.39	27	4.17		
	女子	5	0.86	9	1.55	2	0.34	14	2.41		
5. 学校の備品や家の家具を壊す	全体	45	3.67	74	6.03	8	0.65	112	9.13		
	男子	27	4.17	45	6.96	6	0.93	67	10.36		
	女子	18	3.10	29	5.00	2	0.34	45	7.76		
計	全体	121	9.86	115	9.37	44	3.59	193	15.73		
	男子	78	12.06	70	10.82	34	5.23	126	19.47		
	女子	43	7.41	45	7.76	10	1.72	67	11.55		
全体: n=1227, 男子: n=647, 女子: n=580											

考 察

中学生の 47%は対人暴力の経験があり, 16%は対物暴力の経験のあることが明らかになった。これらの結果は, 文部科学省(2013)と大きく異なるものであった。これは, 問題視されるような暴力行為ばかりでなく, 日々の生活のなかでの些細な喧嘩や衝突も本研究で対象にしたためと考えられる。

中学生の暴力行為の実態を把握するさいに, 文部科学省(2013)の調査に加え, 本研究のように日常的に起こる暴力行為を合わせて検討することの重要性が示唆された。